
僕の声が聞こえますか。

琴風 蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の声が聞こえますか。

【Nコード】

N2645K

【作者名】

琴風 蒼

【あらすじ】

淋しい時に読んで下さい。

拙いけれど・・・そんな思いで書きました。

独り、僕は部屋の隅にうずくまり
鳴らない携帯電話^{ケータイ}を見つめてる。

夜は、嫌い。

嫌でも自分が独りだと分からされる。
部屋にはカチ、カチ、と時計の秒針が働く音がして、
外には寂しい僕を照らす月がいて。

僕の声が誰かに届けばいいのに・・・

そう思った。

時々繋がるメールで、安心するよ。
でも、本当は不安なんだ。

いつだって、誰かと通じていたい。

誰かに思っていて欲しい。

そう思うのが「わがまま」だって知ってる。
だから、誰にも言わない。言えない・・・。

皆はどうなんだろう。

この世の中、独りよりも淋しい時がある。
君は知ってる？

大勢の中に居る時に感じる「孤独」。
本当は、これが一番淋しい……。

誰とも通じ合えない事を知ってるから。

誰にも声が届いていない事を、知ってるから。

それら全て、お互い様。

……だつて。

僕だつて、誰かを「孤独」にしているかも知れないのにね。
誰かの声を聞き逃しているのかも知れないのにね。

自分だけが「寂しい」なんて、
自分だけが「聞いて欲しい」なんて。
そんなの勝手かな……。

僕の声が聞こえますか。

もし。もしも。

今、僕の声が聞こえたのなら
「返事」を下さい。

そしたら、今度は

君の声も聞こえるから……。

（後書き）

正直に、淋しいと感じる時があります。
誰かに気づいて欲しい時があります。

でも・・・もしかしたら相手もそう思っているのかもしれない。
そんな気持ちで書きました。

感想・評価を頂けたら幸いです。

l i e

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2645k/>

僕の声が聞こえますか。

2010年10月16日23時13分発行